

第2学年 国語科学習指導略案

1 組 計 27人
指導者 藤 武 梓

1 単 元 じぶんとくらべて、かんそうを書こう (教材「わたしはおねえさん」光村2年下)

2 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。【知識及び技能 (1) オ】
- 文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつことができる。【C読むこと (1) オ】
- 内容の大体をとらえたり、想像を広げたりしながら楽しく読み、「自分の問い」に対する考えとその理由を伝え合おうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	言語活動(感想文を書くこと)、感想文のモデル、教材文、既習事項を照らし合わせて「自分の問い」を立てる力
論理的思考力	既習事項の掲示や学習コーナーの場の設定、選択等「自分の問い」を解決するための方法を知り、追究しようとする力
創造力	登場人物と自分の体験を結び付けて読みとったことを他者と交流することで、よりよい解決方法や新たな考え方を創り出す力
振り返る力	5観点での振り返りや感想の交流等を通して、自分の思考の過程や学び方を振り返り、学びに意味を見いだす力

4 指導・評価計画(全10時間)

過程(時)	主な学習活動	学びの価値を見いだす子供の反応	主な教師の手立てと重点評価項目(◆)
見 つ か す (2)	【「自分の問い」づくりタイム】 1 学習課題と出会い、解決したい「自分の問い」を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">登場人物と自分を比べて読むには、どうすればよいのだろうか。</div>	登場人物と自分を比べて読むには、どうすればよいのかな。	② 今までに書いた感想文と教師の作成した感想文を比較することで、課題に気づき、よりよい感想文を書くための「自分の問い」を立てることができるようにする。
深 め る (4)	【「自分の問い」追究・交流タイム】 2 「自分の問い」を解決するための学習計画を立てる。 3 すみれちゃんと自分を比べるために、すみれちゃんのことを詳しく知る。 4 すみれちゃんと自分を比べるために、すみれちゃんのことや言ったことを探す。 5 すみれちゃんが妹の絵を消さなかったところの理由を考え、自分と比べる。【本時】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">登場人物と自分を比べて読むには、同じところや違うところを見付ければよい。</div>	読み方と書き方を学ぶと、よい感想文が書けそうだ。 私には妹はいないけれど、1年生と遊んだときのことを思い出したよ。 ・音読劇をしたらすみれちゃんの気持ちがあじわかったよ。 ・同じところを読んでも、みんな考えることが違っておもしろいな。	③ 前時に立てた「自分の問い」を集約することで、よりよい感想文を書くために必要な学習を選び、計画を立てるようにする。 ④ 今まで学習した読みの方を掲示することで、解決方法を自分で選び、人物像をまとめることができるようにする。 ◆ 身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。【知識・技能:ワークシート・ノート】
生 か す (3)			⑤ 三つの学習の場を設定することで、「自分の問い」の解決方法を自己決定できるようにする。
振 り 返 る (1)	【「自分の問い」追究タイム】 6 「わたしはおねえさん」の感想文を書き、感想文の構造を捉える。 7~9 学習したことを生かして、自分が選んだ本の感想文を書く。 【「自分の問い」振り返りタイム】 10 友達と感想を交流し、学習を振り返る。	感想文は、「わたしだったら」という言葉を使って書くことよさそうだ。 「わたしはおねえさん」と同じように、行動を付箋に書いてみよう。 自分と比べて読んだことを書くと、心に残ったところがくわしく書けたよ。	◆ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。【思考・判断・表現:ワークシート・発言】 ◆ 内容の大体をとらえたり、想像を広げたりしながら楽しく読み、「自分の問い」に対する考えとその理由を伝え合おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度:ワークシート・ノート・発言】 ⑥ 書き上げた感想文とこれまでの自分の感想文を比べることで、自分の読みの変容を実感できるようにする。

5 本 時 (5 / 10)

(1) 目 標

文章の内容と自分の体験を結び付けて読み、感想をもつことができる。

(2) 展 開

□ 教師の言葉掛け ▭ 子供の反応 ◆ 重点評価項目

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	主な教師の手立て
見 つ 通 か す む (10)	<p>1 学習計画から本時の活動を見通し、「自分の問い」を立てる。 【「自分の問い」づくりタイム】</p> <p>すみれちゃんと自分を比べて読むには、どうすればよいかな。</p>	<p>㊸ 単元のゴールと前時までの学習を確かめることで、何のために登場人物と自分を比べて読むのかを意識させる。</p> <p>㊸ 子供たちの心に残ったところを掲示し、みんなで考えたいところを考えることで、「自分の問い」を明確にし、目的をもって学習に取り組めるようにする。</p>
調 べ る (15)	<p>2 すみれちゃんの行動を自分と比べて読む。【「自分の問い」追究タイム】</p> <p>(1) 自分だったらどうするか考える。</p> <p>自分だったら落書きをどうしたと思いますか。</p> <p>わたしだったら、すみれちゃんと同じように消さないと思います。</p> <p>それは、どうしてですか。</p> <p>理由は、わたしにも妹がいて、いたずらされて怒ることもあるけれど、やっぱりかわいいから許してあげたと思ったからです。</p> <p>(2) なぜすみれちゃんは、落書きを消さなかったのかを考える。</p> <p>どうしてすみれちゃんは、落書きを消さなかったのかな。</p> <p>すみれちゃんは、優しいおねえさんだから消さなかったのではないかな。</p> <p>かりんちゃんの「すみれちゃんが大好きだ。」という気持ちが伝わったのではないかな。</p>	<p>㊸ 感想を「自分だったら」という言葉で書き始めることで、すみれちゃんと自分を比べて読むことができるようにする。また、すみれちゃんと同じ行動をするときには、「自分も」の言葉を使うようにする。</p> <p>㊸ 必要に応じて、これまでの学習が分かる教材文シートを準備した「振り返りコーナー」とすみれちゃんの言動を動作化して考えることができる「音読劇コーナー」、一人で考える場を設定することで、解決方法を選ぶことができるようにする。</p> <p>㊸ ペアで感想を比較し、考えを伝え合う場を設定することで、自由に交流をする際にも自分の考えを自信をもって伝えたり、友達と比較したりできるようにする。</p> <p>㊸ 自分の考えや経験を交流することで、友達の考えのよさや違いに気付いたり、自分にはない経験を聞いたりして、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>
深 め る (10)	<p>(3) 叙述に基づいて読み取ったことを交流する。 【「自分の問い」交流タイム】</p> <p>「かわいく見えてきました」と書いてあるから、消さなかったのだと思うよ。</p> <p>本当だね。教科書に書いてあるね。かりんちゃんが頑張って描いた絵だから、かわいく思えたのかもしれないね。</p>	<p>◆ すみれちゃんと自分の体験を比べて読み、感想をもっている。 【思考・判断・表現：ワークシート・発言】</p> <p>㊸ 自分の考えを書いた付箋を動かしたり、自分の考えに青鉛筆で加除修正したりすることで、交流によって新たに分かったことや変わったことなどを実感できるようにする。</p> <p>㊸ 「わ・で・か・い・も」の5観点で振り返ることで、登場人物と自分を比べて読むことのよさや交流したことのよさに気付くことができるようにする。</p>
生 振 か り す 返 る (10)	<p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <p>登場人物と自分を比べて読むには、同じところや違うところを見付ければよい。</p> <p>・ 比べて読むよさを確かめる。</p> <p>4 学習を振り返る。 【「自分の問い」振り返りタイム】</p> <p>すみれちゃんと自分を比べて読むと、どんなことがわかりましたか。</p> <p>始めに読んだときよりも、すみれちゃんの気持ちがよくわかりました。</p>	<p>㊸ 登場人物と自分を比べて読むことのよさを確認することで、感想文を書くときにどのように書き表せばよいかを「新たな問い」として解決していくことを確認する。</p>

必要性

自律性

関係性

有用性

第2学年国語科 授業デザインシート（単元）

- 1 単元 じぶんとくらべて、かんそうを書こう
（教材「わたしはおねえさん」光村2年下）
- 2 単元で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	言語活動（感想文を書くこと）、感想文のモデル、教材文、既習事項を照らし合わせて「自分の問い」を立てる力
論理的思考力	既習事項の掲示や学習コーナーの場の設定、選択等「自分の問い」を解決するための方法を知り、追究しようとする力
創造力	登場人物と自分の体験を結び付けて読みとったことを他者と交流することで、よりよい解決方法や新たな考え方を創り出す力
振り返る力	5観点での振り返り、感想文の共有と感想から、自分の思考の過程や学び方を振り返り、学びに意味を見いだす力

3 本単元の授業デザイン

本単元で育成を目指す資質・能力と特に関わりのある学習活動において、以下のような手立てを行い、その有効性を検証しながら授業をデザインすることにした。

	目指す子供の姿	特に関わりのある教師の手立て	時	子供の反応
問題発見力	「どうすればお話の感想をもっと分かりやすく伝えることができるのかな。」「どのように『わたしはおねえさん』を読んだら、あんな感想文が書けるのかな。』といった「自分の問い」を立てている。	〈必要性を実感する教師の手立て〉 子供が言語活動のモデルと今までの自分の感想文を比較することで、読み方や書き方の違いに気づき、「登場人物と自分を比べて感想文を書けるようになりたい。」という問いを立てることができるようにする。	1	
論理的思考力	「振り返りコーナーと音読劇コーナーなら、音読の方がよく分かりそうだな。」「『お手紙』のように登場人物のしたことや言ったことを色分けしたらよさそうだな。」など「自分の問い」の解決方法を選択して「自分の問い」を追究している。	〈自律性を実感する教師の手立て〉 既習事項を掲示することで、子供自身がこれまでの働かせてきた言葉による見方・考え方を生かして学習することができるようにする。 場面の様子を表す言葉に着目し、登場人物の行動を想像しながら音読できる場を設定する。	2 3	
			6 7 8 9	
創造力	「〇〇さんは、このように考えたのだな。ぼくと一緒だ。」「一人では思いつかなかったけれど、話し合うとしっかりと自分の考えが書けた。」など他者との交流によって考えを広げたり深めたりして、よりよい考えを生み出している。	〈関係性を実感する教師の手立て〉 必要に応じて交流の場の設定を行うことで、子供が「自分の問い」の解決のための交流を行うことができるようにする。 付箋を使い、自分の考えや他者の考えを可視化することで、考えを交流できるようにする。	4 5	
振り返る力	「『自分だったら』という言葉を使って読むと、登場人物のことがよく分かった。」「話し合うことで、みんな色々な感想をもっていることが分かった。」など「自分の問い」の解決に近づいたことや学び方のよさについて実感している。	〈有用性を実感する教師の手立て〉 5観点で振り返りを行うことで、子供が学習の意味を見出せるようにする。 教師が子供たちの振り返りの理由を問うことで、学び方のよさについても実感できるようにする。	10	